



豊田市コンサートホール・シリーズ Vol.5

2月3日(土)

第60回市民会館名曲シリーズ

2月8日(木)

第454回定期演奏会

2月16日(金)・17日(土)

f *e* *b.*

目次

日本音楽財団 ストラディヴァリウス・シリーズ	02 p
豊田市コンサートホール・シリーズVol.5	
プログラム・プロフィール・曲目解説	03 ~ 09 p
第60回市民会館名曲シリーズ	
プログラム・プロフィール・曲目解説	10 ~ 15 p
第454回定期演奏会	
プログラム・プロフィール・曲目解説	16 ~ 21 p
コラム	22 ~ 24 p
レコーディングで予習する、次回の定期演奏会	26 ~ 27 p
名フィル・ニュース	28 ~ 29 p
3月の名フィル・コンサート	30 ~ 31 p
楽員出演コンサート	32 ~ 33 p
定期会員の皆様へ	35 p
公開リハーサル・サロンコンサート・まちかどコンサート	36 p
ご支援のお願い	37 p
定期会員名簿	38 ~ 41 p
法人賛助会員名簿	42 ~ 44 p
個人賛助会員名簿	45 ~ 48 p
名フィル プロフィール	49 p
楽員	50 p
役員・団友・事務局員	51 ~ 52 p

※今月の「楽員コラム」は休載させていただきます。



電源OFF

演奏中に携帯電話や時計のアラームが決して鳴らないよう、必ず電源をお切りください。
特に携帯電話は、再度の電源確認をお願いいたします。



音に注意

館の包み紙やアクセサリなど、演奏中に物音がたたないようにご配慮ください。また、補聴器がハウリングを起こさないようしっかり装着し、音量にご注意ください。プログラムやチラシなどのパンフレット類は、演奏中は落下防止のため足下に置かず、鞆にしまうなどのご対応をお願いいたします。



声に注意

演奏中の私語はご遠慮ください。演奏後の余韻もコンサートの一部です。
早すぎる拍手や「ブラボー」は、余韻を楽しみたいお客様はもちろん、演奏者にとっても迷惑です。



入場制限

演奏中のご入退場はご遠慮ください。曲間・楽章間のご入場も制限させていただきます。
また、指定席となっておりますので座席の移動はご遠慮ください。



飲食・撮影禁止

ホールによって許可された場所以外での飲食は、禁じられています。
また、演奏中の録音・録画・写真撮影は、固くお断りしております。

日本音楽財団 ストラディヴァリウス・シリーズ

公益財団法人 日本音楽財団は、アントニオ・ストラディヴァリやグアルネリ・デル・ジェスによって製作された世界最高峰の弦楽器を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与する、弦楽器名器の貸与事業を実施しています。これは、世界的文化遺産である弦楽器名器を保全し、次世代に継承するとともに、それらの活用を図ることを目的としています。また、この貸与事業を通じ、西洋クラシック音楽の発展のための国際的な貢献を目指しています。



名フィルでは2018年2月を「ストラディヴァリウス月間」とし、主催公演3回(4公演)で、日本音楽財団よりストラディヴァリウスを貸与されている3人のヴァイオリニストが登場する〈ストラディヴァリウス・シリーズ〉を開催いたします。いずれも世界的に注目度を高めている、素晴らしい若手ヴァイオリニストの演奏で、名器ストラディヴァリウスの響きをお楽しみください。

▼シリーズ1「ヨアヒム」

2/3 豊田市コンサートホール・シリーズ Vol.5 ⇒ P. 3~

▼シリーズ2「ハギンス」

2/8 第60回市民会館名曲シリーズ ⇒ P.10~

▼シリーズ3「サセルノ」

2/16,17 第454回定期演奏会 ⇒ P.16~

主 催：公益財団法人 名古屋フィルハーモニー交響楽団

特別協力：日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

助 成：Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

豊田市コンサートホール・シリーズVol.5
〈日本音楽財団ストラディヴァリウス・シリーズ1「ヨアヒム」〉

Toyota City Concert Hall Series Vol.5

2018年2月3日(土) 4:00pm 豊田市コンサートホール
4:00pm, Saturday February 3, 2018 at Toyota City Concert Hall

【指揮】 小泉和裕〈名フィル音楽監督〉

Kazuhiro KOIZUMI, Conductor / Music Director

【サイド・バイ・サイド共演】 豊田市ジュニアオーケストラ*

Toyota City Junior Orchestra, with Side by Side

【ヴァイオリン】 レイ・チェン**

Ray CHEN, Violin

【コンサートマスター】 田野倉雅秋

Masaaki TANOKURA, Concertmaster

【サイド・バイ・サイド】

ワーグナー：楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕前奏曲*

[Side by side] Richard Wagner(1813-1883) *Prelude to Die Meistersinger von Nürnberg* (10')

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調 作品26**

Max Bruch(1838-1920) *Violin Concerto No.1 in G minor, Op.26* (25')

第1楽章 プレリユード：アレグロ・モデラート

Prelude: Allegro moderato

第2楽章 アダージョ

Adagio

第3楽章 フィナーレ：アレグロ・エネルジコ

Finale: Allegro energico

.....
休憩 Intermission (20')
.....

ブラームス：交響曲第1番ハ短調 作品68

Johannes Brahms(1833-1897) *Symphony No.1 in C minor, Op.68* (46')

第1楽章 ウン・ポーコ・ソステヌートーアレグロ

Un poco sostenuto - Allegro

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート

Andante sostenuto

第3楽章 ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

Un poco Allegretto e grazioso

第4楽章 アダージョーアレグレット・ノン・トロツポ, マ・コン・ブリオ

Adagio - Allegretto non troppo, ma con brio

主 催：公益財団法人 名古屋フィルハーモニー交響楽団

共 催：公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田市・豊田市教育委員会

特別協力：日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

助 成：Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

小泉和裕 (指揮/名フィル音楽監督)

Kazuhiro KOIZUMI, Conductor / Music Director



2016年4月、名フィル音楽監督に就任。京都生まれ。1969年東京藝術大学指揮科に入学、山田一雄氏に師事。1970年第2回民音指揮者コンクール第1位受賞。

1972年7月、新日本フィル創立に際し、指揮者として参加。同年ベルリンのホッホシュエレに入学し、ラーベンシュタイン教授にオペラ指揮法を師事。

1973年、第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞。その後ベルリン・フィルを指揮してベルリン・デビューを飾った。

1975年～1979年、新日本フィル音楽監督を務める傍ら、1975年ベルリン・フィル定期演奏会に登場、1976年フランス国立放送管を指揮しルービンシュタイン、ロストロポーヴィチとも協演、同年ザルツブルク音楽祭でウィーン・フィルを指揮、その後もミュンヘン・フィル、バイエルン放送響等、ヨーロッパ各地において精力的な指揮活動を行なった。また、アメリカにおいても、1978年ラヴィニア音楽祭でシカゴ交響楽団を指揮し大成功を取めた後、1980年シカゴ響定期公演に登場し注目を集めた。その他、ボストン響、デトロイト響、シンシナティ響、トロント響、モントリオール響などにも客演。

1983年～1989年カナダのウィニペグ響の音楽監督、1986年～1989年東京都交響楽団の指揮者を歴任。ロンドンのロイヤル・フィルには1988年より定期的に招かれ、数々の名演を残すとともにチャイコフスキーの交響曲第4、5、6番のディスクを完成させた。

1989年～1996年九州交響楽団首席指揮者、1992年～1995年大阪センチュリー交響楽団首席客演指揮者、1995年～1998年東京都交響楽団首席指揮者、1998年～2008年東京都交響楽団首席客演指揮者、2003年～2008年大阪センチュリー交響楽団首席指揮者、2008年～2013年東京都交響楽団レジデント・コンダクターおよび日本センチュリー交響楽団音楽監督を歴任。

現在名フィル音楽監督のほか、東京都交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団音楽監督、神奈川フィルハーモニー管弦楽団特別客演指揮者、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者(2018年3月末まで)を務める。



Photo : Tom Doms

レイ・チェン (ヴァイオリン)

Ray CHEN, Violin

1989年台湾生まれ、オーストラリア育ち。15歳でカーティス音楽院入学を許可され、アーロン・ロザンドに師事した。2008年ユーディ・メニューイン国際コンクール、2009年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールにて優勝。2012年12月、ノーベル賞受賞者とスウェーデン王室が出席したノーベル賞コンサートでは、最年少出演のソリストとして、クリストフ・エッシェンバッハ指揮ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団と共演し、その模様はテレビで放映された。これまでに、リカルド・シャイー指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団など数々の著名なオーケストラと共演。



使用楽器

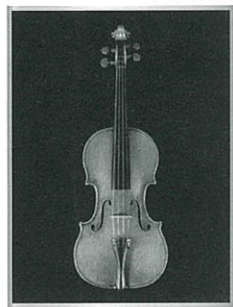
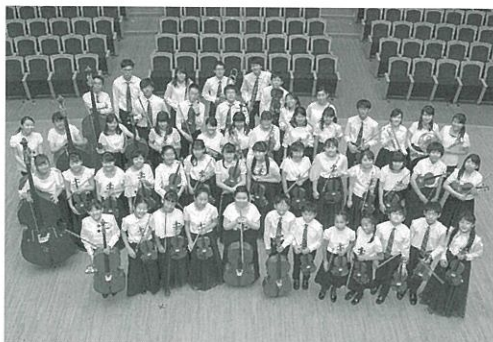


Photo : S. Yokoyama

ストラディヴァリウス 1715年製ヴァイオリン「ヨアヒム」

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)が所有していたストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン5挺の内の1つである。また、ヨアヒムからヴァイオリンのレッスンを受けていた彼の兄弟の孫娘アディラ・アラニに遺贈されたことから「ヨアヒム=アラニ」という名前でも知られている。日本音楽財団が購入するまでは、アラニ家によって代々受け継がれてきた。



©写真員

豊田市ジュニアオーケストラ

Toyota City Junior Orchestra

豊田市ジュニアオーケストラは、演奏活動を通して青少年の豊かな情操を養うと同時に、質の高いジュニアオーケストラを育成することにより、豊田市における文化活動のシンボルとして、青少年の音楽活動の中心となり音楽文化の向上に寄与することを目的に、平成8年12月8日結成。約2年間の練習期間を経て平成10年11月豊田市コンサートホール・能楽堂のオープンと共にデビュー。平成11年1月に第1回定期演奏会を開催。以来、毎年夏と春の2回、定期演奏会を開催。一流アーティストと共演する機会に恵まれ、演奏会の面白さ、音楽の素晴らしさを直接肌で感じてきた。また、平成20年には、豊田市との姉妹提携都市である英国・ダービーシャーへ姉妹提携10周年事業の一環で訪英、平成27年には米国・デトロイトへ姉妹都市提携55周年事業の一環で訪米。現地の青少年オーケストラとのジョイントや各地で演奏を披露するなど、親善大使としての役割を果たした。平成28年には結成20周年を記念し、紀尾井ホールにて東京公演を開催した。アンサンブル活動としても、選抜メンバーによるアンサンブルTJOとして、交流館祭などの市内行事における演奏活動を行うなど1年を通して活発な活動を続けている。現在団員は67名(平成29年9月現在)。

豊田市ジュニアオーケストラ 出演者一覧

1stヴァイオリン

稲垣 英里奈
森 由奈
井藤 恵梨香
深津 月那
斉藤 かや
鈴木 健太郎
笹 伶夷
實田 結

2ndヴァイオリン

玉置 菜々子
三枝 知裕
水野 愛弓
大原 菜々恵
實田 絢
渡邊 更紗

チェロ

永井 徳

コントラバス

牧野 朝妃
丸地 郁海

フルート

三浦 幸
齋藤 華香

オーボエ

前田 佳奈穂

クラリネット

野村 珠緒

ファゴット

上田 司

ホルン

鈴木 日奈子
井土 実乃里

トランペット

大葉 緋那子

トロンボーン

村上 隆也

打楽器

谷奥 ひなた
竹内 萌香

ワーグナー

楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕前奏曲

『タンホイザー』、『ローエングリン』を書き上げたワーグナーは、1849年のドレスデンの革命騒動に加担したため逮捕状が出されてスイスに亡命し、総合芸術論を論じた著作や『ニーベルングの指環』4部作の台本を執筆。伝統的なオペラから、すべての要素が融合した楽劇へと足を踏み入れた。作曲は、4部作の中の『ラインの黄金』『ワルキューレ』の順に進められ、『ジークフリート』を中断したまま『トリスタンとイゾルデ』に創作のエネルギーは注がれ、1859年に仕上げられた。次に着手されたのが、ドイツの歌人マイスタージンガーの世界を題材にした『ニュルンベルクのマイスタージンガー』である。ワーグナーの追放が解除された1862年に作曲は始められ、バイエルンの国王ルートヴィヒ2世との謁見から3年後の1867年に完成に至った。初演は1868年、ミュンヘンの宮廷歌劇場でハンス・フォン・ビューローの指揮でおこなわれ大成功をおさめている。

舞台は16世紀のニュルンベルク。靴屋の親方でマイスタージンガーの

ハンス・ザックス、若い騎士ワルター、マイスタージンガーの金細工師ポグナーの娘エーヴァたちが繰り広げる歌合戦の物語を通して、ドイツの民衆芸術の素晴らしさが讃えられている。3幕から成り、半音階に彩られた前作の『トリスタンとイゾルデ』とは対照的な、輪郭のはっきりとした明朗な音楽が特徴である。

第1幕の前奏曲は、劇全体の雰囲気凝縮したような堂々とした楽曲。まず、マイスタージンガーたちを表す動機が力強く示され、続いて木管による憧れにみちた柔和な動機や、マイスタージンガーの組合を表現する行進曲風の動機など、劇中の動機が次々と姿を見せて壮麗な音の綾を紡いでいく。やがては主要な3つの動機が同時に結合されて見事な盛り上がりが見事な築かれ、輝かしい終結を迎える。

作曲：1862-1867年

初演：1868年6月21日 ミュンヘン宮廷歌劇場（ハンス・フォン・ビューローの指揮）

楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、シンバル、トライアングル、ハープ、弦5部

ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調 作品26

ブルッフはブラームスと同時代のドイツの作曲家で、1838年、ケルンの生まれ。幼い頃から作曲の才能を示し、コブレンツやゾンデルスハウゼンの宮廷の音楽監督を経て、ベルリン、リヴァプール、ブレスラウで指揮者として活躍し、1890年から1911年にはベルリン音楽大学の作曲のマスタークラスで教鞭をとり、教育者としての重責も果たしている。

メンデルスゾーンやシューマンを尊敬する彼の作風は、リストやワーグナーの進歩的な路線とは異なり、伝統に根ざした豊かな旋律と親しみやすさが持ち味となっている。創作の対象は合唱曲や声楽曲が中心となっており、とりわけ世俗的な合唱曲はドイツが統一された1870年代にしばしば演奏され、『オデュッセウス』はブラームスが音楽監督を務めていたウィーン楽友協会の1875年の演奏会でも取り上げられている。

声楽曲に比べると器楽曲はあまり多く書かれていないが、ヨーゼフ・ヨアヒムやパブロ・デ・サラサーテら当時の屈指のヴァイオリニストたちとの交流を背景にして、独奏ヴァイオ

リンとオーケストラのための楽曲は9曲も手がけられている。9曲の内ヴァイオリン協奏曲は3曲あり、ヨアヒムに捧げられた第1番は1868年の作。『スコットランド幻想曲』とともにブルッフの名を今日にまで伝える代表作であり、また、1844年のメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲に続くロマン派のヴァイオリン協奏曲の傑作である。

楽章は3つ。〈前奏曲〉と名付けられたト短調の第1楽章は再現部らしい再現部を持たない自由なソナタ形式。途切れなくそのまま変ホ長調の第2楽章に流れ込むと、ブルッフ特有の叙情的でカンタービレな旋律がゆるやかに奏でられる。フィナーレの第3楽章は一転してエネルギー的な楽章。明るいつ長調の響きの中で独奏ヴァイオリンとオーケストラが華やかな協奏を聴かせる。

作曲：1866年
初演：1866年4月24日 コブレンツ(ケーニヒ・スロウの独奏/作曲家自身の指揮)
楽器編成：ヴァイオリン独奏、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦5部

ブラームス 交響曲第1番ハ短調 作品68

指揮者のハンス・フォン・ビューローから「ベートーヴェンの第10交響曲」と呼ばれたこの交響曲は、ベートーヴェンの音楽様式の後継者としての自覚を持ち、交響曲の創作を最大の課題としていたブラームスが長い間の熟考を経て世に出した作品である。

ブラームスの交響曲へのはじめての取り組みは1855年、22歳の時。シューマン家を訪問し才能を認められ、「音楽新報」の“新しい道”という記事の中で紹介されて2年後のことである。もともと、『2台ピアノのためのソナタ』に基づいて第1楽章のオーケストレーションまで進められていたこの作業は途中でピアノ協奏曲へとジャンルが変更されてしまった。交響曲の作曲はしばらく途絶え、再び筆が進むのは1862年。後に第1番となる交響曲の第1楽章をブラームスはクララ・シューマンにピアノで弾いて聴かせている。しかしまた交響曲の創作は先延ばしにされる。彼の頭から交響曲への思いが消えることはなかったようだが、結局1876年になってようやく作曲は本格的な段階に入り、秋に全楽章のオーケストレーション

が完了。11月にカールスルーエで初演されている。最初の試みから20年余。その間、弦楽四重奏曲第1番、第2番や、『ハイドンの主題による変奏曲』などのオーケストラ曲で力を蓄えたブラームスが満を持しての交響曲第1番である。

楽曲は隙のない堅固な書法により、ベートーヴェンの交響曲第5番『運命』を思わせる「闇から光へ」という図式の4楽章構成を採っている。ハ短調の第1楽章は重々しい序奏で始まるソナタ形式。深刻な情緒を帯びているが、最後はハ長調の和音で静かに終わる。ホ長調の第2楽章は静けさの中に深い味わいをただよわせ、クラリネットの甘美な主題で始まる変イ長調の第3楽章は優美で簡素な風情が印象的である。第4楽章ではハ短調からハ長調へと変わる序奏に導かれ、壮大で雄渾な音楽が織りなされていく。

作曲：1862-76年

初演：1876年11月4日 カールスルーエ（オットー・デッツフの指揮／カールスルーエ宮廷管弦楽団）

楽器編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

プログラム Program

2 / 3 豊田市コンサートホール・シリーズ

第60回市民会館名曲シリーズ

〈ベートーヴェン・ツィクルスV / 日本音楽財団ストラディヴァリウス・シリーズ2「ハギンス」〉

The 60th Famous Works Series

2018年2月8日(木) 6:45pm 日本特殊陶業市民会館フォレストホール
6:45pm, Thursday February 8, 2018 at NTK Hall Forest Hall

【指揮】川瀬賢太郎〈名フィル指揮者〉

Kentaro KAWASE, Conductor

【ヴァイオリン】イム・ジョン*

Ji Young LIM, Violin

【コンサートマスター】後藤龍伸

Tatsunobu GOTO, Concertmaster

ベートーヴェン:ウェリントンの勝利(戦争交響曲) 作品91

Ludwig van Beethoven(1770-1827) *Wellingtons Sieg (Battle Symphony), Op.91 (15')*

ベートーヴェン:ロマンス第1番ト長調 作品40*

Ludwig van Beethoven *Romance No.1 in G major, Op.40 (8')*

ベートーヴェン:ロマンス第2番ヘ長調 作品50*

Ludwig van Beethoven *Romance No.2 in F major, Op.50 (9')*

.....
休憩 Intermission (20')
.....

ベートーヴェン:交響曲第4番変ロ長調 作品60

Ludwig van Beethoven *Symphony No.4 in B flat major, Op.60 (35')*

第1楽章 アダージョー - アレグロ・ヴィヴァーチェ

Adagio - Allegro vivace

第2楽章 アダージョ

Adagio

第3楽章 アレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ

Allegro molto e vivace

第4楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

Allegro ma non troppo

2 / 16 / 17 定期演奏会

主 催：公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

後 援：愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市・名古屋市教育委員会・公益財団法人名古屋文化振興事業団・
中日新聞社・CBCテレビ

特別協力：日本音楽財団

NIPPON MUSIC FOUNDATION

助 成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)



Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



Photo : Yoshinori Kurosawa

川瀬 賢太郎 (指揮/名フィル指揮者)

Kentaro KAWASE, Conductor

1984年東京生まれ。私立八王子高等学校芸術コースを経て、2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を広上淳一、汐澤安彦、チョン・ミョンファンなどの各氏に師事。2006年10月に行われた東京国際音楽コンクール<指揮>において1位なしの2位(最高位)に入賞し、2007年3月には入賞者デビューコンサートで神奈川フィルハーモニー管弦楽団および大阪センチュリー交響楽団を指揮。

その後、東京交響楽団、読売日本交響楽団、名フィルを始め、各地のオーケストラから次々に招きを受ける。2011年4月には名フィル指揮者に就任、意欲的な選曲と若さ溢れる指揮で聴衆を魅了。2014年4月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者に就任。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届けている。

海外においてもイル・ド・フランス国立オーケストラとの共演や、ユナイテッド・インストゥルメンツ・オヴ・ルシリンと共演。

オペラにおいても、細川俊夫『班女』、『リアの物語』、モーツァルト『後宮からの逃走』、『フィガロの結婚』、『コジ・ファン・トゥッテ』、『魔笛』、ヴェルディ『アイダ』など目覚ましい活躍を遂げている。

2007年～2009年パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)アシスタント・コンダクター。

現在、名フィル指揮者、神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、八王子ユースオーケストラ音楽監督、三重県いなべ市親善大使。2015年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第64回神奈川文化賞未来賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞、第65回横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。

東京音楽大学の作曲指揮専攻(指揮)特任講師。

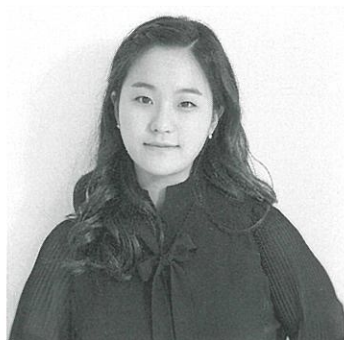


Photo : Rami Hyun

イム・ジヨン (ヴァイオリン)

Ji Young LIM, Violin

2015年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールにて優勝、副賞として日本音楽財団からストラディヴァリウスを次期コンクール開催までの4年間貸与されている。1995年ソウルに生まれ、7歳でヴァイオリンを始めた。現在は韓国芸術総合学校(国立大学)にてキム・ナムユン教授に師事している。2013年ユーロアジア国際コンクールで優勝した他、インディアナポリス、モントリオール国際音楽コンクール等数々の国際コンクールにて入賞。これまでに日本、アメリカ、カナダの他、ヨーロッパ諸国でコンサートツアーを行っている。国際音楽祭にもたびたび招待され、マキシム・ヴェンゲーロフ、ジョエル・スミルノフ、原田幸一郎等著名なヴァイオリニスト・指揮者との共演を重ねている。



使用楽器



Photo : S. Yokoyama

ストラディヴァリウス 1708年製ヴァイオリン「ハギンス」

このヴァイオリンはかつて、有名な楽器商ニコラス・ヴィヨームが所有していた。その後、イギリスの天文学者であるウィリアム・ハギンス卿(1824~1910)が、1880年頃ウィーンの皇帝からこの楽器を購入し、所有していたことから「ハギンス」と呼ばれている。色艶も鮮やかで保存状態に優れている。日本音楽財団は1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に副賞として次のコンクールまでこの楽器を貸与し、コンクールの発展と演奏家の技術向上に寄与している。

ベートーヴェン
ウェリントンの勝利（戦争交響曲） 作品91

ウェリントンは1815年のワーテルローの戦いでナポレオン軍を破ったことで知られるイギリスの将軍。1813年にはスペインに侵攻していたナポレオン軍をバスク地方のヴィットリオで打ち負かし勝利をおさめているが、この知らせがウィーンにも伝わり、その頃メトロノームを試作中だったメルツェルが、ウェリントンの勝利をたたえた音楽を自らが発明した自動演奏装置パンハルモニコンに演奏させてイギリスで一儲けしようと考えた。そこで作曲をベートーヴェンに依頼。自動演奏用だけでなくオーケストラ用としても書かれた『ウェリントンの勝利』は1813年12月、ウィーン大学講堂において、戦争傷病兵救済のための慈善演奏会で交響曲第7番とともに初演された。

この時ウィーンの音楽家たちも協力し、『ウェリントンの勝利』ではエステルハージ侯爵家の宮廷楽長ヨハン・ネポムク・フンメル、ウィーンの宮廷楽長アントーニオ・サリエリ、ベートーヴェンと縁のあるヴァイオリン奏者イグナツ・シュパンツィヒらも参加した。演奏会はそれまでに

ないほどの大成功をおさめ、4日後に再演。『ウェリントンの勝利』の人気は翌年も続き、2月に交響曲第8番が初演された折にも、交響曲第7番とともに再演されている。

「戦争交響曲」という通称を持つが、交響曲の形態ではなく第1部と第2部の2部構成。編成はイギリス軍とフランス軍を現わす軍楽を左右に配した規模の大きなものである。第1部は戦闘の描写。まず、イギリス軍、フランス軍の太鼓とラッパ、行進曲が鳴り響き、やがて戦闘開始。臨場感豊かに砲撃がくり返される。フランス軍の敗北がしめやかに暗示されると第2部へ。勇壮な音楽となり、イギリス国家『ゴッド・セイヴ・ザ・キング』も流れて華々しくウェリントンの勝利が祝福される。

作曲：1813年
初演：1813年12月8日 ウィーンの大学講堂（作曲家自身の指揮）
楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット6、トロンボーン3、ティンパニ、バス・ドラム、スネア・ドラム、シンバル、トライアングル、ラチェット、弦5部

ベートーヴェン
ロマンス第1番ト長調 作品40
ロマンス第2番ヘ長調 作品50

ベートーヴェンはすぐれたピアニストであったが、ボン時代にはヴィオラやヴァイオリンも弾いており、ウィーンに出てくる直前の1790年から1792年にかけてヴァイオリン協奏曲の創作を試みている。WoO5の番号が与えられているこの作品は第1楽章の259小節までしか残されていないが、かなり力が入った大規模な協奏曲をベートーヴェンは書こうとしていたのではないかと推察されている。その後、彼が独奏ヴァイオリンとオーケストラのための楽曲として生み出したのが、第1番と第2番のロマンスである。2曲とも独奏ヴァイオリンを叙情的に歌わせた穏やかな小品である。

『ロマンス第1番』は、ピアノ協奏曲第1番、第2番をすでに書き終えた1801年から1802年頃の作。ト長調の簡素な主要主題が再帰するロンド形式だが、2つのクープレで独奏ヴァイオリンが奏でる主題も落ち着いた風情を帯びている。

『ロマンス第2番』は第1番よりも前の成立で、ピアノ協奏曲第2番の

決定稿が出来上がった1798年、おそらく11月頃に作曲された。楽譜の出版は少し遅く、1805年にピアノ・ソナタ『ヴァルトシュタイン』作品53とともに出版された。第1番と同じようにロンド形式の愛らしくゆったりとした曲であるが、第2番のほうが旋律のカンタービレな性格が強く、また、表情や色彩の移ろいが鮮やか。甘美な中にも彫りの深さを持った魅力的なロマンスである。

優しく柔和な2曲のロマンスの後、ベートーヴェンはピアノ協奏曲第3番と第4番で協奏曲の書法を進歩させ、さらに、1806年末にはわずか1ヶ月ほどで、19世紀のヴァイオリン協奏曲の傑作となるヴァイオリン協奏曲ニ長調を書き上げている。

作曲：[第1番]1801-02年頃 [第2番]1798年
初演：不明
楽器編成：ヴァイオリン独奏、フルート、オーボエ2、
ファゴット2、ホルン2、弦5部

ベートーヴェン 交響曲第4番変ロ長調 作品60

革新的な規模と表現内容を持ち、交響曲というジャンルを飛躍的に発展させた1803年の第3番『英雄』から3年後の1806年、交響曲第4番は作曲された。

第3番に比べると楽器編成が縮小され、全体的に伝統的な造りとなっている第4番はそれほど目立つわけではなく、ベートーヴェンの交響曲様式の追求の歩みが少し後退したような印象を与えることもあるが、1806年はピアノ協奏曲第4番、3曲の弦楽四重奏曲『ラズモフスキー』、ヴァイオリン協奏曲二長調も書かれた実り豊かな創作期にあたる。第4番においても、古典的に見える枠組の中にベートーヴェンらしいダイナミズムが満ちあふれ、充実した響きと精神の躍動を感じ取ることができる。

献呈はフランツ・フォン・オッペンズドルフ伯爵に。オッペンズドルフ伯爵は私設オーケストラを持つ熱心な音楽愛好家で、交響曲第4番を作曲中のベートーヴェンが伯爵の居城を訪れた際には交響曲第2番を演奏してベートーヴェンを歓迎している。ちなみに、『運命』の名で呼ばれる

交響曲第5番も最初はオッペンズドルフ伯爵のために作曲され、前金も受領されているのだが、結局伯爵に献呈されることはなかった。

楽曲は4つの楽章から。ソナタ形式の第1楽章はアダージョの幻想的な序奏で始まり、アレグロ・ヴィヴァーチェの主部に入ると変ロ長調の弾むような第1主題とへ長調の素朴な第2主題が提示される。第2楽章は変ホ長調によるアダージョ楽章で、2つの主題ともカンタービレ。旋律の叙情的な美しさが際立っている。変ロ長調、アレグロ・ヴィヴァーチェの第3楽章はメヌエットの表記だが、実質的にはスケルツォ。きびきびとしたスケルツォ主題の間に、管楽器中心の柔らかなトリオがはさまれている。第4楽章はアレグロ・ノン・トロポ、変ロ長調のソナタ形式。無窮動のようなめまぐるしい動きと明確なアクセントに彩られた快活な音楽が全曲を締めくくる。

作曲：1806年

初演：1807年3月 ウィーン、ロブコヴィッツ侯爵私邸
(作曲家自身の指揮)

楽器編成：フルート、オーボエ2、クラリネット2、
ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

プログラム Program

2 / 3 豊田市民コンサートホール・シリーズ

第454回定期演奏会

〈シドニーII 1万ドルのシンフォニー／日本音楽財団ストラディヴァリウス・シリーズ3「サセルノ」〉

The 454th Subscription Concert

2018年2月16日(金)6:45pm / 17日(土)4:00pm 日本特殊陶業市民会館フォレストホール
6:45pm, Friday February 16 / 4:00pm, Saturday February 17, 2018 at NTK Hall Forest Hall

【指揮】 広上 淳一

Junichi HIROKAMI, Conductor

【ヴァイオリン】 アリーナ・ポゴストキーナ*

Alina POGOSTKINA, Violin

【コンサートマスター】 日比 浩一

Koichi HIBI, Concertmaster



NAGOYA SYDNEY

姉妹都市 名古屋・シドニー

2 / 8 市民会館名曲シリーズ

クエネ:エレヴェーター・ミュージック[日本初演]

Graeme Koehne(1956-) *Elevator Music [Japan Premiere] (8')*

シベリウス:ヴァイオリン協奏曲ニ短調 作品47*

Jean Sibelius(1865-1957) *Violin Concerto in D minor, Op.47 (33')*

第1楽章 アレグロ・モデラート

Allegro moderato

第2楽章 アダージョ・ディ・モルト

Adagio di molto

第3楽章 アレグロ

Allegro

.....
休憩 Intermission (20')
.....

2 / 16 / 17 定期演奏会

アッテルベリ:交響曲第6番ハ長調 作品31『ドル・シンフォニー』

Kurt Atterberg(1887-1974) *Symphony No.6 in C major, Op.31 "Dollar Symphony" (33')*

第1楽章 モデラート

Moderato

第3楽章 ヴィヴァーチェ

Vivace


第2楽章 アダージョ

Adagio

主 催：公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

共 催：名古屋市

後 援：愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・公益財団法人名古屋市文化振興事業団・朝日新聞社・メ〜テレ

特別協賛： 三井不動産リアルティ株式会社

特別協力：日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

助 成： 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



広上 淳一 (指揮)

Junichi HIROKAMI, Conductor

東京生まれ。東京音大指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンサートヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。1991～95年ノールショピング響、1998～2000年リンブルク響の各首席指揮者、1997～2001年ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者。1991～2000年日本フィル正指揮者、2006～08年米国コロンバス響音楽監督を歴任。

近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、スイス・イタリア管、サンクトペテルブルク・フィル、チャイコフスキー響、ラトビア国立響、ボルティモア響、シンシナティ響、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、ポーランド放送響、スロヴェニア・フィル、バルセロナ響、ビルバオ響、モンテカルロ・フィル、サンパウロ響、ニュージーランド響等へ客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団にもたびたび招かれ絶賛を博している。

オペラ指揮の分野でも1989、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディ『仮面舞踏会』や『リゴレット』が高く評価されたのをはじめ、近年では藤原歌劇団『椿姫』、日生劇場『アイナダマール』（日本初演）、『ドン・ジョヴァンニ』、新国立劇場『椿姫』『アイダ』等が記憶に新しい。

2008年4月より京都市交響楽団常任指揮者を経て2014年4月より常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー。2015年4月京都市交響楽団とともにサントリー音楽賞受賞。2017年4月より札幌交響楽団友情客演指揮者。東京音楽大学指揮科教授。



Photo : Felix Broede

アリーナ・ポゴストキーナ (ヴァイオリン)

Alina POGOSTKINA, Violin

1983年 Санктペテルブルクに生まれ、1992年に一家でドイツに移住。父の手ほどきでヴァイオリンを始め、後にベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でアンティエ・ヴァイトハースに師事する。数々の著名なコンクール入賞を経て、2005年シベリウス国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。これまでにロジャー・ノリントン、サカリ・オラモ、ウラディーミル・アシュケナージ、マーティン・ブラビンズなど著名な指揮者をはじめ、フランクフルト放送交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ハレ管弦楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー交響楽団、ロスアンジェルス・フィルハーモニック等、世界中のオーケストラとも共演を重ねている。

使用楽器

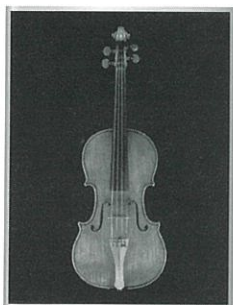


Photo : S. Yokoyama

ストラディヴァリウス 1717年製ヴァイオリン「サセルノ」

1845年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前と呼ばれている。1894年にはヴァイオリン奏者のオットー・ペイニガーが所有し、その後にイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906年にはイギリスの産業資本家ヘンリー・サマーズが所有し、それ以後90年以上にわたり同家で大切に保管されていたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

クーネ
エレヴェーター・ミュージック

オーストラリア・アデレード出身の作曲家グレアム・クーネ(1956-)は、1982年に管弦楽作品《レインフォレスト》によってアデレード音楽祭で若手作曲家賞を獲得して、広く知られるようになった。その後ヤコブ・ドラックマンやルイ・アンドリーセンら現代音楽作曲家に師事し、また、巨匠ヴァージル・トムソンにも個人レッスンを受けた。ダンスや児童バレエのための作曲にも力を注ぎ、劇中の情景や人物心理をポピュラー・タッチの明晰な音楽で描いている。

《エレヴェーター・ミュージック》は、《紡がれない旋律》、《パワーハウス》と並ぶクーネ三部作の一つである。作曲者自身が言うように、レス・バクスター、ヘンリー・マンシーニ、ジョン・バリーの影響下にあり、ムード音楽やハリウッド映画のようなサウンドをきらめかせている。しかしながら12音技法を一捻りした知的な構築を持っており、二つのヘキサコード（六音集合）が組み合わさった「音の塊」を素材としている。自身の作品がシリアスな性質とポピュラー音楽の混交であることについて、クーネは

「シェーンベルクがガーシュインとテニスをしているようだ」と言う。

打楽器の強打で鮮烈に始まり、地を這うような土俗的な動きの本管楽器に乗って、金管楽器がビッグバンド風の主題を導く。この主題が本管で強烈にデフォルメされた後、3+3+2のビートが炸裂し、このビートが全曲を通じて保持される。弦楽器の滑らかな叙情主題も現れ、ティンパニ連打の上に、徐々に音程幅を広げる短い上行モチーフが乗せられグイグイと推進していく。マンボ・リズムや『007』を思わせる半音階を対旋律として差し挟みながら、中間部では六種のピッチが重なり合う「塊」が主題の輪郭を辿っていく。クラリネットの短いソロの後、低弦で繰り返される下行半音階の上にスタカート和音が重ねられ「追われる者」を思わせるが、再び基本ビートが戻ると一層スピード感を増していく。

作曲：1997年

楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ2、スネア・ドラム、サスペンデッド・シンバル、コンガ、ウッドブロック、ラチェット、クラヴェス、カウベル、タム・タム、トムトム、マラカス、マリimba、ホイッスル、弦5部

シベリウス
ヴァイオリン協奏曲ニ短調 作品47

シベリウスは1899年にすでにヴァイリン協奏曲の作曲を考えていたが、「完全に書き直してしまうまでは出版社に渡さない」と自制していた。1903年になって、ハンブルグ生まれの名ヴァイオリニスト、ヴィリー・ブルメスターに新しい協奏曲を捧げることを公言し、この年の末には、2つの楽章が完成していた。1904年初頭には、シベリウスが昼も夜もヴァイオリンを弾きながら作曲に熱中している様子を、妻のアイノが友人への手紙に書いている。

初演は、当初予定したベルリンの演奏会ではなくヘルシンキに変更され、その際、ソリストもブルメスターでなくヴィクトル・ノヴァーチェクに変更した。ノヴァーチェクは、ヘルシンキ音楽学校の教師であり、演奏家としても高く評価されていたが、次々と名人芸を要求するシベリウスの協奏曲をこなさざることは難しく、初演は不評に終わった。1905年夏には改訂作業に勤しみ、10月19日にはリヒャルト・シュトラウス指揮のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されることとなった。

しかし、その際もブルメスターとの日程が合わず、独奏は、同管弦楽団のコンサートマスター、ハリールが勤めた。

第1楽章 アレグロ・モデラート

独奏部に現れる主要主題は、ニ短調の第四音であるト音から始まりイ音に上ったあとでニ音へ落ち着くという特徴的な形を持っている。トゥッティとソロが交互に出現する形式はとらず、独奏の巨大なカデンツァが圧倒する。

第2楽章 アダージョ・ディ・モルト

木管楽器から独奏ヴァイオリンへと受け渡された主題が、朗々と弧を描いて空間を広げる。

第3楽章 アレグロ

力強い三拍子に乗って独奏の技巧が次々に楽想を広げ、激しい舞踊音楽のようにも感じられる。イギリスの音楽学者・作曲家であるドナルド・フランシス・トーヴィは「北極グマのポロネーズ」と言っている。

作曲：1903年
初演：1904年2月8日 ヘルシンキ（作曲家自身の指揮／ヴィクトル・ノヴァーチェクの独奏）
楽器編成：ヴァイオリン独奏、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

アッテルベリ

交響曲第6番ハ長調 作品31『ドル・シンフォニー』

クット・アッテルベリは、スウェーデン西端の町イエーテボリで1887年に技術者の息子として生まれた。10歳のころからチェロを学んだが、王立工科大学に進学して電気技術者を目指しながらストックホルムのオーケストラに在席して作曲も続けた。交響曲第1番、第2番を発表して好評を得、さらに王立劇場から『イエフタ』のための劇音楽を委嘱された。第三帝国時代には、ドイツとスウェーデンの国際関係を深めるためにドイツの音楽家たちと交流し、ドイツでしばしば指揮活動を行なった。ナチとの関係を続けたアッテルベリの書簡には、しばしば反ユダヤ的な言葉も含まれている。戦後は親ナチのレッテルから解放され、作曲や批評活動に加え、スウェーデン音楽アカデミーの理事も勤めた。

交響曲第6番は1927年から28年、すでに国家的作曲家として注目され作曲家協会と著作権協会の会長を勤めていた時期に作曲された。この作品によってコロンビア・レコードが主催するシューベルト没後100年記念作曲コンクールで第1位となり、賞金1万ドルを獲得した。受賞後10年間、何度も演奏されていたが、戦後は

ほとんど演奏されなくなり、1992年になってようやく録音された。

第1楽章 モデラート

勇壮で情熱的な主要主題が金管楽器と弦楽器の大胆な対比によって自在に変奏されていく。木管楽器で叙情的なペントニックの副次主題が提示される。楽想の変化は劇音楽風な場面転換を思わせる。

第2楽章 アダージョ

スウェーデンの民族音楽を組み込み、クラリネットが叙情的に旋律を奏でる。中間部では管楽器の独奏的旋律がリードする。

第3楽章 ヴィヴァーチェ

軽快な付点リズムに乗ってフルートが主題を導く。高らかな金管楽器重奏による第2主題は主要主題と組み合わせられる。複調的に弦楽器と管楽器を対峙させる部分や複数のモチーフをブロックのように積み重ねて交錯させる部分が目立つ。

作曲：1927-28年

初演：1928年10月16日ケルン（ヘルマン・アーベントロートの指揮）

楽器編成：フルート3（ピッコロ持替1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、バス・ドラム、スネア・ドラム、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、ウッドブロック、ハープ、弦5部

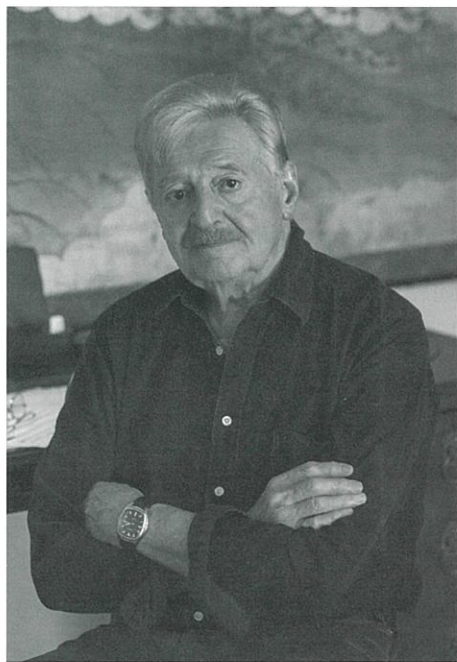
オーストラリアの作曲家による西欧音楽 —— スカルソープとリザ・リンの場合

オーストラリアの現代作曲家として日本でも比較的よく知られている人のひとりに、ピーター・スカルソープ(1929-2014)がいる。本日の演奏会で取り上げられるクーネよりほぼ一世代年上ということになるが、同世代の武満徹(1930-1996)が熱心に紹介していたので、スカルソープの作品は日本でもしばしば演奏された。

彼の作品が最初に多くの日本人に聞かれたのは大阪万博である。会期中の1970年8月、万博会場の鉄鋼館において、武満、武田明倫、秋山邦晴、高橋悠治の企画による四日間のコンサート&シンポジウム「今日の音楽」が開催されたが、その最終日にスカルソープの《弦楽四重奏のための音楽》も演奏された。それより前、1965年にすでにスカルソープは、日本の短詩型に影響されたピアノ独奏曲『HAIKU』を作曲し、これは、俳句を題材にした日本以外の作曲家による象徴的な作品となっている。

スカルソープは1960年代からヨーロッパの前衛語法に触れ、その新しさをアボリジニ文化やオーストラリアの広大な自然に根ざす透明なサウンド・テクニチャーと融合させて独自の表現領野を広げたが、ヨーロッパとオーストラリアを繋ぐプロセスにおいて、しばしばアジアや日本を参照している。上に述べた

俳句の例もすでにその傾向を例証しているわけだが、サントリーホール国際作曲委嘱シリーズの第22回(1998年)に委嘱作曲家として登場した際の選曲も実に興味深い。



ピーター・スカルソープ
Photo: Bridget Elliot

武満が監修していたこのシリーズでは、委嘱された作曲家は、自分が最も影響を受けたと思う作品と、ぜひ紹介したいと思う自国の

若手作曲家の作品の二つを自らの新作と合わせて企画することになっていた。武満が1996年に他界したため、スカルソープは武満監修時代のシリーズの最後の委嘱作曲家となり、新作『グレート・サンディ・アイランド』の初演は1998年10月13日となった。スカルソープが影響を受けた音楽として取り上げたのは《越天楽》と武満の《夢の時》であり、若手の方はシドニー出身のバリー・カニンガム（1944-）を取り上げた。このシリーズにおいて、影響を受けた音楽としてあえて日本の音楽を取り上げた人は、スカルソープとフィリピンのホセ・マセダだけだった。

スカルソープによる音素材の選択も特別強く日本に関係している。武満追悼の意味をこめてスカルソープが作曲した《小レクイエム：箏と弦楽のための》（1996）では、他者の死を受入れがたく思う「序」の後に「キリエ」「天の国にて」という二つの穏やかな章が続くが、もっとも長いセクションである「キリエ」では、ヨーロッパの伝統的な単旋聖歌が3回繰り返し返されるうちに、子守唄のような対旋律が重なっていく。「箏と西欧の単旋聖歌や弦楽器を組み合わせることがオーストラリアを表現することである」とスカルソープ自身がプログラム・ノートに書いているが、オーストラリアの土着楽器ではなくあえて日本の箏を取り上げたのである。日本の伝統をルーツに持って西欧に歩み寄った武満、その武満（＝日本）をとおして西欧に近づいて行ったスカルソープ、ここには二重の異文化受容があると言える。

もう一人、スカルソープよりもクーンネよりも若い世代のオーストラリアの女性作曲家リザ・リン（1966-）に触れたい。パースで中国人の医者 の 両親のもとに生まれたリンは、メルボルンでピアノ、ヴァイオリン、作曲を学び、クイーンズランド大学で博士号を取得した。この世代の多くの音楽家の例に漏れず、リンの国際的活動は活発である。アムステルダムでトン・デ・レーウに師事したのち、ダルムシュタット夏期現代音楽講習会に積極的に出かけ、カリフォルニア大学、コーネル大学などアメリカの大学やパリのAgora現代音楽祭などでレクチャーを行なった。作品は、ロスアンジェルス・フィル、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、アンサンブル・モデルン、アルデッティ弦楽四重奏団、BBC交響楽団などで演奏され、「パリの秋」音楽祭、ベルリンのメルツムジーク、ヴェネチア・ビエンナーレ、ハダースフィールド現代音楽祭、クランクフォールム・ウィーンなど各地のフェスティバルで華々しく紹介されている。



リザ・リン

ここでは彼女のオペラ『トゥリー・オブ・コード』をとりあげて、異文化がもはや「異なる」ものとしては意識されない、キッチュでナチュラルな当世風世界について述べてみたい。

2016年春にケルン・オペラで初演された、上演時間約90分（小編成現代オペラとしては平均的な長さ）の『トゥリー・オブ・コード』は、自然系の音響効果をふんだんに用い、エスニックな打楽器やサブコントラバスフルートなどの特殊な音色を使う。単音を多用する楽器パートは西洋・東洋（アジア、オセアニア）どちらのハーモニーを押し付けることもないので、歌唱旋律の大胆な跳躍や不協和音程の巡りが、耳に心地よく流れていく。歌手はしばしば動物の仮面を付け、穴蔵から出てきた、恐ろしく汚い出で立ちの男性（＝指揮者）が、世を去ろうとしている父と過去の親子関係を精算しようとする息子との葛藤に参入していく。地元ケルンのメディア《ドイツ舞台》紙では「サウンドデザインの施された舞台

スペクタクル」と評されたが、この作品がオペラなのかミュージックテアータ（音楽劇）なのかはさておき、リザ・リンは、確かに、ヨーロッパの楽器や音階や和音感覚をいとも容易く組みかえ、もはやオーストラリア的な風景や鳥の声と矛盾無く同居するサウンド世界を作り上げている。インターネットやSNSが地球を隈なくつないでいる今日、伝統音楽であれ現代音楽であれ、西洋と東洋は対立するものではなく、また、ハリウッド・サウンドかシリアス・ミュージックかというジャンルやスタイルの差も相対化されている。

弦楽器専門 OYAMA

1981
established

バイオリン・ビオラ・チェロ・販売・修理
毛替・修理・調整承ります。
当日仕上げは御予約下さい



地下鉄栄駅より
歩いて3分
13番出口より

お気軽にご利用ください。お待ちしております。
☎052-261-0789

〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目15-23
（ライオンズマンション久屋公園916号）
●営業時間 AM10:00～PM6:00

（定休日）日曜日・祝日 ※定休日にお越しの際はお電話下さい。

2018.4-2019.3シーズン 定期会員券&セット券 好評発売中!



4月より始まる2018.4-2019.3シーズンの定期会員券&セット券は、ただいま好評発売中!〈文豪クラシック〉シリーズと銘打ち、文豪作品にちなんだラインナップをお贈りする定期演奏会。〈ベートーヴェン・ツィクルス〉の2シーズン目を迎える市民会館名曲シリーズ。そしてアンドリス・ボーガとライナー・ホーネックを指揮に迎えるしらかわシリーズ。いずれも通常よりお得な料金で、年間を通して同じお席でお楽しみいただけます。良い席はお早めにお求めください!

※2018-19シーズンのラインナップ詳細は、名フィル公式ウェブサイト(www.nagoya-phil.or.jp)をご覧ください。

定期演奏会「定期会員券」(全11公演分)

セレクト・プラチナ席	プラチナ席	S席	A席	B席	C席	D席
¥92,760	¥69,900	¥46,600	¥39,160	¥31,960	¥24,900	¥17,900

※セレクト・プラチナ席、プラチナ席は定期会員券のみの販売となり、1回券での販売は行ないません。

市民会館名曲シリーズ「セット券」

	プラチナ席	S席	A席	B席	C席	D席
第九セット券(全5回分)	¥28,070	¥18,620	¥15,050	¥11,550	¥8,050	¥5,670
4回セット券(第九なし)	¥21,560	¥14,280	¥11,480	¥8,680	¥5,880	¥4,200

しらかわシリーズ「セット券」(全2公演分)

	S席	A席	B席
セット券	¥8,160	¥5,760	¥3,360

お問合せ:名フィル・チケットガイド Tel. 052-339-5666(9:00~17:30/土日祝休)

ヨーロッパ人テイストの気品漂う上質空間で、深い寛ぎの時間を。

名古屋 東急ホテル
 〒460-0008 名古屋市中区栄4-6-8
 Tel:052-251-2411 Fax:052-251-2422
www.nagoya-h.tokyuhotels.co.jp
 地下鉄栄駅12番出口より徒歩5分



名古屋フィルハーモニー交響楽団 Nagoya Philharmonic Orchestra

愛知県名古屋市を中心に、東海地方を代表するオーケストラとして、地域の音楽界をリードし続けている。その革新的な定期演奏会のプログラムや、充実した演奏内容で広く日本中に話題を発信。“名フィル”の愛称で地元住民からも親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。

現在の指揮者陣には2016年4月に音楽監督に就任した小泉和裕のほか、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ティエリー・フィッシャー(名誉客演指揮者)、円光寺雅彦(正指揮者)、川瀬賢太郎(指揮者)が名を連ねている。また、2017年4月には第2代コンポーザー・イン・レジデンスに酒井健治が就任。

楽団結成は1966年7月。1973年に名古屋市の出捐により財団法人に、2012年に愛知県より認定を受け公益財団法人となる。意欲的な内容に定評のある「定期演奏会」をはじめ、親しみやすい「市民会館名曲シリーズ」や障がいのある方を対象とした「福祉コンサート」など、バラエティに富んだ年間約120回の演奏会を実施。創立から50年を越え、さらなる飛躍を期している。

音楽監督

小泉 和裕

正指揮者

円光寺雅彦

指揮者

川瀬賢太郎

桂冠指揮者

小林研一郎

名誉指揮者

モーシェ・アツモン

名誉客演指揮者

ティエリー・フィッシャー

コンポーザー・イン・レジデンス

酒井 健治

コンサートマスター

後藤 龍伸

田野倉雅秋

日比 浩一

客演コンサートマスター

植村 太郎

アシスタント・コンサートマスター
矢口十詩子

ヴァイオリン

川上 裕司 ◎ (第2ヴァイオリン)

小森 絹子 ◎ (第2ヴァイオリン)

石渡 慶豊

井上 絹代

大竹 倫代

大野美由紀

小椋 幸恵

小尾 佳正

神戸 潤子

鬼頭 俊

小泉 悠

坂本智英子

山洞 柚里

瀬木 理央

田中 光

豊永 歩

中西 俊哉

日高みつ子

平田 愛

松谷 阿咲

森 亘

米田 誠一

ヴィオラ

石橋 直子 ◎

叶澤 尚子 ◎

池村 明子

今村 聡子

小泉 理子

小林伊津子

紫藤 祥子

杉山光太郎

寺尾 洋子

吉田 浩司

チェロ

太田 一也 ◎

酒泉 啓 ◎

新井 康之

小笠原恭史

幸田 有哉

佐藤 有沙

コントラバス

上岡 翔 ◎

佐渡谷綾子 ◎

井上 裕介

坂田 晃一

田中 伸幸

永井 桜

古橋由基夫

フルート

富久田治彦 ◎

大久保成美

オーボエ

山本 直人 ◎

竹生 桃

寺島 陽介

クラリネット

ロバート・ボルショフ ◎

浅井 崇子

井上 京

ファゴット

ゲオルギ・シャシコフ ◎

田作 幸介 ◎

三好 彩

ホルン

安土 真弓 ◎

津守 隆宏

野々口義典

トランペット

井上 圭 ◎

宮本 弦 ◎

坂本 敦

松田 優太

トロンボーン

香川 慎二 ◎

田中 宏史 ◎

森岡 佐和

バス・トロンボーン

小幡 芳久

テューバ

林 裕人 ◆

ティンパニ&打楽器

窪田 健志 ◎

ジョエル・ビードリツキー ◎

菅生 知己

三宅 秀幸

◎ 首席

○ 次席

◆ 留学中

インスペクター

鬼頭 俊

小泉 悠

ライブラリアン

林 仁志

ステージ・マネージャー

不破 孝浩

役員・団友・事務局員 Board, Orchestral Friends & Administration

【役員】

顧問	専務理事	諮問委員	参与
大村 秀章 奥田 碩 河村たかし 豊田 鐵郎 山本 亜士	松本 一彦 常務理事 西岡 良洋 監事 加藤 千磨 内川 尚一	足達 新 坂坂 克則 伊原 保守 尾堂 真一 神野 信郎 栢森 秀行 小泉 敬太 小出 真市 坂本 弘子 茶村 俊一 嶋尾 正 白石 好孝 杉田 洋一 高橋 德行 高橋 美夫 瀧 昌之 竹尾 聡 谷 喜久郎 種村 均 馬場 紀彰 深町 正和 本多立太郎 松岡 聡 松山 彰 三須 尚紀 三輪 芳弘 盛田 和昭 安井 義博 安田 正介 山崎 宏 山田 敏彦 横井 正彦	石原 亮 稲見 秀之 岩本 洋二 上田 剛 奥田 慶一 片山 明彦 近藤世津子 竹内 英高 寺尾 晶子 橋本 礼子 藤原 啓税 二神 一 松下 寿昭 宮川 尚人 宮澤 祐子
理事長 山口 千秋	評議員 大西 朗 小笠原 剛 岡部 弘 小川 秀樹 小川 正樹 小野 直彦 片岡 明典 小山 勇 佐々木龍也 須田 寛 豊島 半七 鳥居 保博 中北 智久 中野谷公一 浜本 英嗣 早川 敏生 林 芳行 藤井 知昭 藤森 利雄 松林 孝美 渡邊 正則		
副理事長 廣澤 一郎 宮本 悦子			
理事 石黒 大山 大石 幼一 金田 慎也 小松 伸生 佐藤 恵子 鷺見 卓 竹本 義明 戸山 俊樹 平野 幸久 水谷知加子 水野みか子 宗次 徳二 山内 正照			



MUSIC PLAZA LTD.

株式会社 ミュージックプラザ

〒460-0008 名古屋市中区栄3丁目27番30号武馬ビル2F
 (地下鉄矢場町⑥出口より徒歩3分、矢場公園⑨東)

Violin Expert and Maker — ☎(052)264-4601

※御来店前にアポイントメントをお願い致します。



【団友】

青谷 良明
 熱田 敬一
 阿部 黎子
 新井 雅夫
 荒川 修次
 五十嵐裕子
 池田 俊子
 和泉 正憲
 井出元研一
 伊藤 武
 井上 正彦
 植村 勉
 大澤 弘
 大澤由美子
 岡崎 隆
 小木曾典孝
 亀山 吉彦
 北垣 紀子
 木股 哲夫
 工藤 高邦
 後藤 敏秀
 小松 孝文
 近藤 敬

佐々木真樹緒
 佐藤 宏
 佐野 光子
 志摩 真理
 志摩 良治
 神野 薫
 菅 俊夫
 杉浦 薫
 住田 敬二
 大海 隆宏
 高橋 妙子
 竹田 千波
 竹本 義明
 土屋 晃次
 戸塚富美代
 中西 祥之
 西岡 正臣
 畑田 和雄
 早川 秀一
 林 茂子
 藤澤 伸行
 藤本 寮子
 古澤 涉

古館 真理
 保坂 三千子
 星 順治
 堀内 信彦
 松永 哲夫
 松山 大樹
 水谷 仁
 水野 敏子
 水山 亜由
 水山 宗己
 三宅 薫
 村田 四郎
 森本 千絵
 諸岡 研史
 山口 十郎
 山口 典久
 山本 正明
 李 善銘

【事務局員】

事務局長

佐野 洋一

企画スタッフ

大和佐江子(海外渉外)

総務部

佐野 洋一

(部長/事務局局長兼務)

野田 裕子(課長)

大熊 悦子

営業推進部

石橋 雅治(部長)

清水 善一(主幹)

岡田健太郎

佐藤あや乃

横江 寛治

演奏事業部

山元 浩(部長)

小出 篤(課長)

林 仁志(主幹/ライブラリアン)

岩澤 陽介

渥美 友香

清水 仁路

不破 孝浩(ステージ・マネージャー)

発行

公益財団法人 **名古屋フィルハーモニー交響楽団**

発行日

2018年2月3日

〒460-0022


名古屋市中区金山1-4-10 名古屋市音楽プラザ 4F

Tel. 052-322-2774

Fax. 052-322-3066

www.nagoya-phil.or.jp

デザイン

 愛知県立芸術大学

印刷

株式会社コスモクリエイティブ



心を動かす広告戦略。

革新していく熱いハートとアイデアで、お客様の成長と社会に貢献してまいります。

総合広告代理店

 ^{アド}株式会社 **東海同回エージェンシー**

〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目12-3 ADビル TEL 052-263-3361 <http://www.net-toukai.co.jp>

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6リそな九段ビル5F TEL 03-6869-0252

東海アドエージェンシー

検索